

三浦電波監視センターの見学会・講演会

事務局長 松藤 浩一郎

日本衛星ビジネス協会は7月27日（金）、今年第1回目となる施設見学会を三浦電波監視センターで行い、大和久会長（株式会社放送衛星システム取締役）をはじめ会員23名が参加しました。また、同センター長で総務省関東総合通信局電波監理部の石井次長により、『電波監視の歴史と役割』と題する講演も行っていただきました。ご協力いただきました電波監理部の方々に厚く御礼申し上げます。

三浦海岸の裏手に広がる田園地帯にある三浦電波監視センターは、総務省関東総合通信局電波監理部が運営する我が国唯一の短波帯・宇宙電波監視施設です。国内外の無線局や人工衛星から発射される電波を24時間常時監視し、周波数調整に役立つ情報収集や混信・干渉などの原因調査・分析、国際電気通信連合（ITU）への報告を行うなど、国際的にも重要な役割を担っています。

協会員は2班に分かれて屋内外の電波監視設備を見学しました。全国5ヶ所（千歳、東金、珠洲、阿蘇、石垣）に設置されたセンサ局を集中制御し、短波帯の不法電波や海外からの妨害波の発射源を探知する「DEURAS-H (DEtect UNlicensed RADIO Station - HF)」や、静止衛星の軌道位置と各種周波数の電波の諸元を測定する、直径1.1mと直径5mのカセグレンアンテナなど巨大な電波監視装置群を目の当たりにして、かつてカール・セーガン博士の小説『コンタクト』を読んだ時の感動を思い出しました。



写真1 短波帯以下の電波を受信するための空中線施設群



写真2 人工衛星からの電波を測定し混信などの原因調査を行う宇宙電波監視アンテナ群

この見学会を通じて、衛星ビジネスに携わる私たちを陰で支える国の重要な取り組みを深く実感することができました。無線ブロードバンドの時代が到来し、電波利用が私たちの生活に必要不可欠になるなか、電波監視の役割は今後益々重要になっていくものと思います。

三浦電波監視センターの皆さん、本当にありがとうございました。

以 上